

# MEXTAGE

## 第55期 株主通信

2023年1月1日から2023年12月31日まで

- P.1 2023年度の業績振り返りと今後の事業戦略
- P.3 2023年度の業績を教えてください
- P.4 TOPICS
- P.5 財務指標
- P.6 会社概要、株式の状況

## 経営理念

わたしたちは「独創の技術」「信頼の品質」「万全のサービス」を信条に、自由に着想し、グローバルな事業活動を通して界面価値創造を実現することで豊かで潤いのある社会と環境づくりに貢献します。



社長に聞く!

## 2023年度の業績振り返りと 今後の事業戦略

# 新しい技術領域に向けた 薬品プロセスの提供に注力



令和6年能登半島地震により被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

### ■ 半導体市場の在庫調整一巡も、全般に需要低調

当期のマクロ経済は、世界的なインフレや金融引き締め継続、中国の不動産市況悪化と需要低迷、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や緊迫する中東情勢等で緊迫した地政学リスクのもとで推移しました。こうした状況下、長期化していた半導体市場の調整局面も復調の兆しを見せましたが、上述の下押し要因により本格的な動きには至りませんでした。

同様にエレクトロニクス業界もパソコンやスマートフォン等電子機器の在庫調整が進み、底は打ったと見られるものの、個人消費は低調でした。一方、自動車用途の需要については回復の傾向が見られました。クラウド化やIoT等の進展を支えるデータセンターについては、生成AI\*需要の高まりで従来型の汎用分野よりも先端分野への投資が優先される傾向にありました。

これらの影響を受けて、当社製品の受注は第1四半期を底に回復基調で推移しましたが、その度合いは緩慢でありました。

### ■ 「CZシリーズ」は減少も在庫調整進む

半導体を搭載するパッケージ基板の銅表面処理剤として独占的シェアを持つ密着向上剤「CZシリーズ」は、エレクトロニクス業界の影響を受け減少したものの、サプライチェーンにおいて在庫調整が進んだことにより、緩やかではありますが回復の傾向が見られます。

### ■ 「EXEシリーズ」は微増、 「V-Bond・SFシリーズ」は減少

ディスプレイ向けエッチング剤「EXEシリーズ」は、関連する電子部品の在庫調整が進み、微増となりました。多層基板向け密着向上剤「V-Bondシリーズ」は、関連する自動車の生産が回復傾向にあったものの減少しました。ディスプレイ向け選択エッチング剤「SFシリーズ」は、タブレットPCやスマートフォン等関連する電子機器の需要が弱く、大きく減少しました。

### ■ 当面の事業課題と研究開発

近年、半導体の性能向上を目的に「後工程」プロセスの重要性がますます高まり、材料・装置メーカー各社が研究開発や関連投資を活発化させています。また、半導体デバイスの低消費電力化や

代表取締役社長

前田和夫



詳細はホームページ掲載の決算短信をご覧ください。

[www.mec-co.com/ir/library/](http://www.mec-co.com/ir/library/)

高速化、高集積化が進み、パッケージ基板への技術要求も一層高度化する中、当社はこうした新しい技術領域に向けた薬品プロセスの研究開発に取り組んでいます。加えて、大量の情報を短時間で伝達しなければならないニーズに対応するため高周波対応基板に向けた研究開発に注力しています。

もう一つの重要テーマは自動車分野への取り組みです。ADAS（先進運転支援システム）\*や自動運転の本格普及を支える車載向け電子基板に、これまで以上に当社の薬品プロセスを採用いただくことを目指し、より一層努力してまいります。

### 中期経営計画と北九州工場（仮称）の進捗状況

当社グループの第一期中期経営計画（2022年度～2024年度）は次期が最終年度となります。その数値目標（連結）の達成には、調整局面の半導体市況や個人消費の停滞等が影響すると見込まれますが、中期的には2030年ビジョン「独創の技術で新たな価値を創造し、お客様とともに持続可能な社会の実現に挑戦する」の実現を見据え、先述した事業課題に注力して取り組み、「創造と変革」を指針に持続的成長と企業価値の最大化を進めてまいります。

北九州工場建設については、当初発表では2023年10月着工としていましたが、建設資材等の調達遅延のほか、生産需給面で想定より時間的余力ができたことから詳細設計の精査を行い、本年4月の着工、2025年7月稼働開始と予定を変更いたしました。

### 次期見通しと配当政策

次期につきましては、当社グループが関連する電子部品において在庫調整が進み、回復局面を迎えているもののそのペースは緩やかであり、本格的な回復は次期後半になると見込んでおります。配当につきましては、従来どおり安定配当を基本に連結配当性向30%を目標においております。

### 株主の皆様へのメッセージ

世界の半導体産業におきましては、2023年中に主要半導体メーカーの在庫調整プロセスはほぼ完了し、市場再拡大に向かうと見られる一方、低消費電力で演算性能にも優れ、通信高速化を支える新しい半導体関連工程において技術の開発が進んでいます。そこに向けて当社の薬品プロセスを提供することで市場ニーズにお応えし、持続的成長を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 用語解説

### 生成AI(Generative AI)

画像・文章・音声・プログラムコードなど様々なコンテンツを生成できる人工知能

### ADAS(先進運転支援システム) Advanced Driver-Assistance Systems)

先進技術を駆使してドライバーを支援する自動車の電子システム



## 2023年度のポイント

押さえておきたい2023年度のポイントを2ポイントにまとめています。

**1** 市場回復ペースが緩やかで  
当社製品の受注は低調

**2** ディスプレイ向け「EXEシリーズ」は  
微増、密着向上剤「CZ・V-Bond  
シリーズ」が減少



## 2023年度の実績

	2022年 12月期	2023年 12月期	増減
	2022年1月1日～ 2022年12月31日	2023年1月1日～ 2023年12月31日	
売上高 (百万円)	16,329	14,020	14.1% 減
営業利益 (百万円)	4,004	2,492	37.7% 減
経常利益 (百万円)	4,246	2,683	36.8% 減
親会社株主に 帰属する当期 純利益 (百万円)	3,064	2,304	24.8% 減
1株当たり 当期純利益 (円)	161.22	122.29	

### 当社の主要薬品を紹介

#### 密着向上剤

##### ■ CZシリーズ

パッケージ基板向けに、銅樹脂間の密着性を高める用途で使用される薬品  
(最終製品例: パソコン、スマートフォン、データセンター、サーバー等)

##### ■ V-Bondシリーズ

多層基板向けに、銅樹脂間の密着性を高める用途で使用される薬品  
(最終製品例: 車、スマートフォン等)

#### エッチング剤

##### ■ EXEシリーズ

COF(Chip on Film)基板向けに、不要な銅を溶かし微細配線を形成する用途で使用される薬品  
(最終製品例: テレビ、パソコンのモニター等)

##### ■ SFシリーズ

銅を選択的に溶かす用途で使用される薬品  
(最終製品例: タブレットPC等)

### 業績推移および製品別・セグメント別販売動向について

#### Q 当期の事業環境と業績について教えてください

#### A 全般に低調でしたが、第1四半期を底に緩やかな回復基調

当社グループの関連市場である電子基板・部品業界は、エレクトロニクス業界の影響を受け、関連する当社製品の受注は低調でしたが、第1四半期を底に緩やかな回復基調で推移しました。電子基板関連市場においては、パソコンやスマートフォン、タブレットPC等の民生電子機器用の在庫調整に底打ち感も見られましたが、引き続き低調でした。データセンター用のパッケージ基板は、AI向けの需要が急増するなかで、汎用サーバーへの投資が抑制される傾向にありました。

このような環境のもと、当社グループはデジタル化やグリーン化に向け社会が変化・変革期にあるなか「創造と変革」を指針に事業活動に取り組み、高密度電子基板向け製品の開発、販売に注力いたしました。

その結果、当期の売上高は140億20百万円(前期比14.1%減)、営業利益は24億92百万円(同37.7%減)、売上高営業利益率は17.8%(同6.7ポイント減)、経常利益は26億83百万円(同36.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は23億4百万円(同24.8%減)となりました。

売上高の内訳は、薬品売上高は137億64百万円(前期比14.2%減)、機械売上高は1億12百万円(同34.1%減)、資材売上高は1億39百万円(同28.6%増)、その他売上高は3百万円(同56.0%減)となりました。

#### Q 製品別の販売状況を教えてください

#### A EXEが微増、CZ・V-Bond・SFは低調

「CZシリーズ」の売上高は86億31百万円(前年同期比16.3%減)、薬品売上高に占める割合は62.7%(同1.6ポイント減)でした。「EXEシリーズ」は11億16百万円(同3.1%増)、「V-Bondシリーズ」は7億46百万円(同5.6%減)、「SFシリーズ」は5億46百万円(同37.7%減)でした。

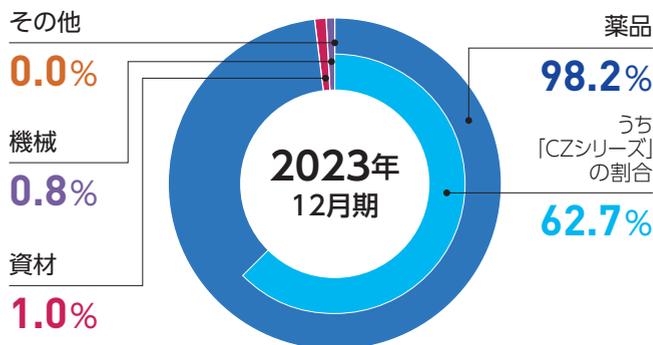
#### Q 地域別の販売動向はどうでしたか?

#### A 全般的に低調

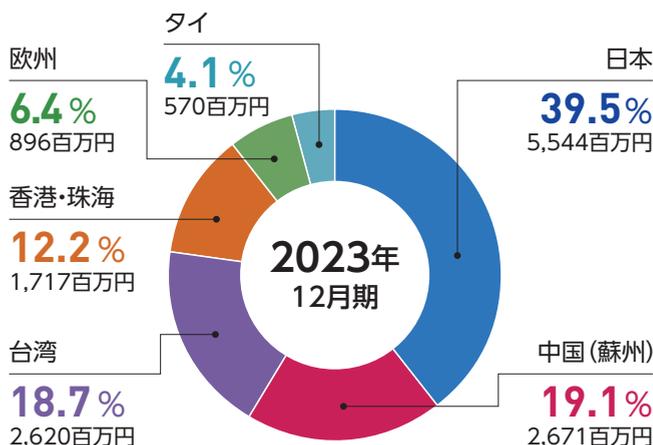
地域別売上高(連結)における海外売上高比率は62.0%(前期比1.3ポイント増)となりました。日本ではエレクトロニクス業界の

影響を受け、関連する当社製品の受注も低調でしたが、緩やかな回復基調で推移しました。日本代理店経由で販売している韓国向けは在庫調整がほぼ完了するも当社製品の受注は回復途上で、台湾も回復に足踏みが見られ、ともに低調でした。香港(香港、珠海)は緩やかな回復傾向にあるものの、スマートフォンや自動車に関連する電子基板・部品の需要が弱く低調。中国(蘇州)は一部顧客で回復の傾向にあるものの、需要は力強さを欠きました。欧州は高インフレ率のなか顧客の生産活動に濃淡が見られ、売上は増加。タイでは、新規顧客における生産立ち上がりの遅れや顧客の生産減少・在庫調整等が続き、低調でした。

#### 売上高に占める品目別割合 (%)



#### 地域セグメント別売上高比率 (%) / 売上高 (百万円)



\* 比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

## 持続可能な社会を目指して ～当社のサステナビリティへの取り組み～

メックグループは、2030年ビジョン「独創の技術で新たな価値を創造し、お客様とともに持続可能な社会の実現に挑戦する」の実現に向け、「創造と変革」を指針に事業活動に取り組んでいます。

持続可能な社会の実現のためには、私たち一人ひとりがSDGsや脱炭素など地球環境への課題解決に向け取り組んでいかなければなりません。さらに、当社では従業員を当社グループの持続可能な発展を支える最も重要な「人的資本」と捉え、理想の人財像に掲げる「自律自走し、連帯できる」の体現に取り組んでいます。

ここで、当社の「サステナビリティ基本方針」と「人材育成・社内環境整備方針」を紹介します。



当社ウェブサイト関連ページ

<https://www.mec-co.com/sustainability/>



### サステナビリティ基本方針

メックグループは、「独創の技術」「信頼の品質」「万全のサービス」を信条に、ESGの視点における企業責任を認識した経営基盤の整備・運用を行い、公正で誠実な事業活動を通して社会課題の解決に取り組み、企業自身が成長しながら継続的に社会的価値を創造し、持続的な社会の実現に貢献していきます。

- 事業活動を通してサステナビリティ課題に取り組み、解決するなかで新たな事業機会の創出に努めます
- 互いを尊重し、多様な能力や専門性を最大限に発揮し、活かせる労働環境・風土を醸成します
- 気候変動や限りある資源に配慮し、環境負荷低減の取り組みに努めます

### 人材育成・社内環境整備方針

1. 挑戦できる企業風土の実現  
多様な個性・価値観を有する人財が、自律自走・連帯のもと、「創造と変革」に挑戦できる企業風土を醸成します。
2. キャリア形成と能力開発支援  
従業員一人ひとりの持続的成長のために必要な教育・研修機会を提供し、キャリア形成と能力開発を支援します。
3. ダイバーシティの推進  
「多様な人財の獲得」「公正な評価で報いる人事制度の構築」「効果的な人財配置を実現するタレントマネジメントシステムの充実」による、働き甲斐のある労働環境づくりに取り組みます。
4. 従業員エンゲージメントの向上  
多様な人財を受容する制度整備・意識変革を推進し、ワークライフバランスの充実による、従業員エンゲージメントの向上を実現します。
5. 良好な社内環境の構築  
従業員一人ひとりが心身ともに健康で、安全にいきいきと働き続けることができる良好な社内環境を構築します。

## 2023年11月30日(木)に施設見学会を実施

「株主様向け 本社・尼崎事業所見学会」を開催いたしました。

2023年11月30日(木)、株主様に当社理解を深めていただくことを目的に、本社・尼崎事業所の見学会を開催いたしました。当日はIR担当者から当社概要について説明を行った後、工場・研究開発・事務各エリアをご見学いただきました。見学終了後の質疑応答には社長の前田を始め役員が出席し株主様からさまざまなご質問やご感想をいただき、交流を図ることができました。今後も株主様とのコミュニケーションの場を設け、当社をご理解いただくための取り組みを続けてまいります。

### 参加者からの声(抜粋)

- いろいろな施設を見学させていただき、非常にいい新鮮な印象を持った。
- 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)が徹底されていた。
- 工場、工程が非常にシンプルだった。
- 見学会に参加した価値があった。
- 今後もこのような機会を設けてほしい。



見学会の様子(工場エリア)



見学会後に行われた質疑応答

### 見学会概要

開催日時: 2023年11月30日(木) 14:00～16:00

応募人数: 30名

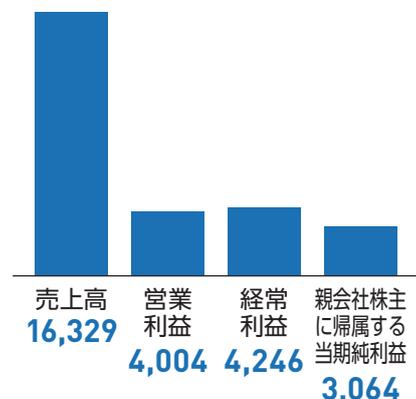
(直前のキャンセルもあり、当日は25名の株主様をご参加)



## 連結損益計算書の概要 (百万円)

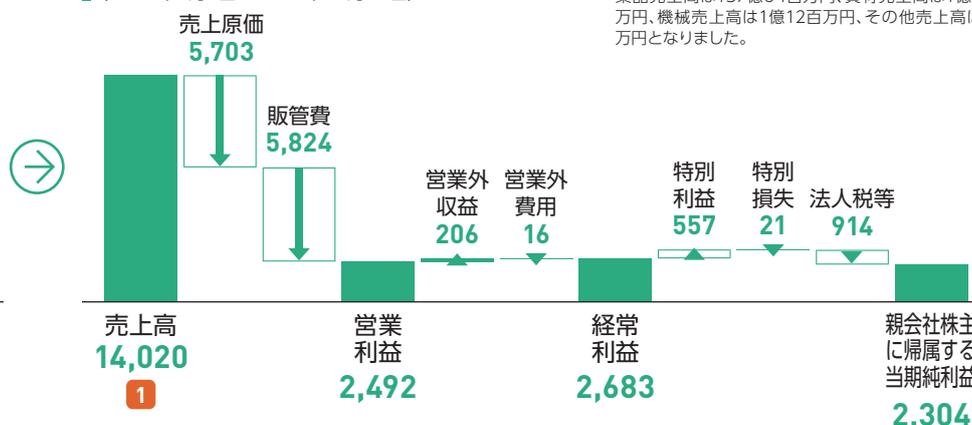
### 2022年12月期

(2022年1月1日～2022年12月31日)



### 2023年12月期

(2023年1月1日～2023年12月31日)



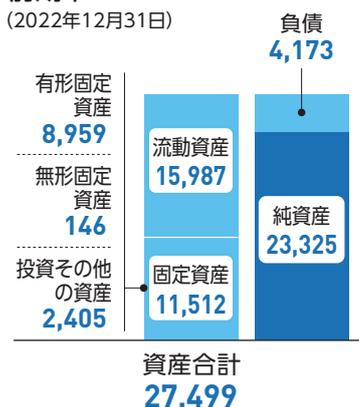
### 1 売上高

薬品売上高は137億64百万円、資材売上高は1億39百万円、機械売上高は1億12百万円、その他売上高は3百万円となりました。

## 連結貸借対照表の概要 (百万円)

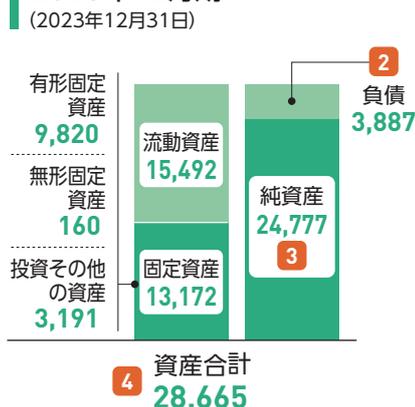
### 前期末

(2022年12月31日)



### 2023年12月期

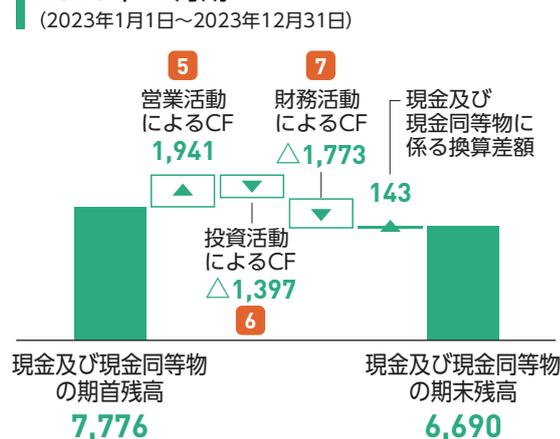
(2023年12月31日)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)

### 2023年12月期

(2023年1月1日～2023年12月31日)



### 2 負債

負債は、電子記録債務の減少等により、2億85百万円減少し、38億87百万円となりました。

### 3 純資産

純資産は、利益剰余金の増加等により、14億51百万円増加し、24億77百万円となりました。

### 4 資産合計

資産は、受取手形及び売掛金や土地の増加等により、11億66百万円増加し、28億65百万円となりました。

### 5 営業活動によるCF

営業活動の結果得られた資金は、19億41百万円。これは主に税金等調整前当期純利益が32億19百万円、減価償却費が7億73百万円、仕入債務の減少が3億93百万円、および、法人税等の支払額が9億36百万円計上されたこと等によるもの。

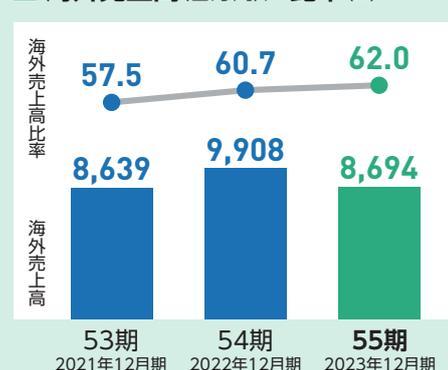
### 6 投資活動によるCF

投資活動の結果使用した資金は、13億97百万円。これは主に有形固定資産の取得による支出が18億57百万円、有形固定資産の売却による収入が9億43百万円、定期預金の預入による支出が純額で3億3百万円計上されたこと等によるもの。

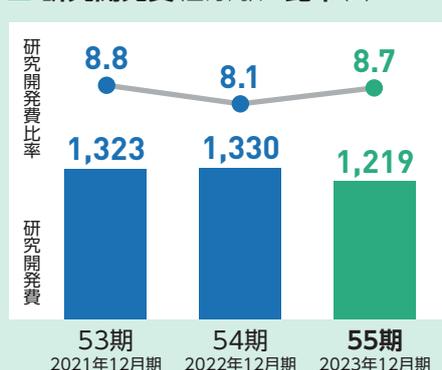
### 7 財務活動によるCF

財務活動の結果使用した資金は、17億73百万円。これは主に配当金の支払が8億56百万円、自己株式の取得による支出が9億円計上されたこと等によるもの。

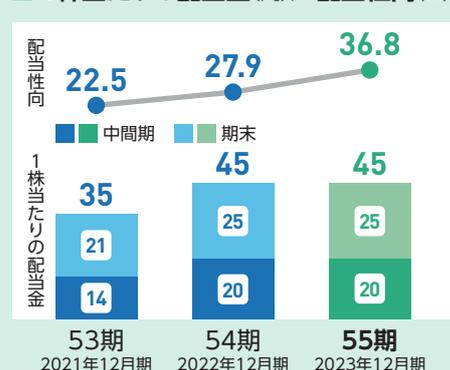
## 海外売上高(百万円)／比率(%)



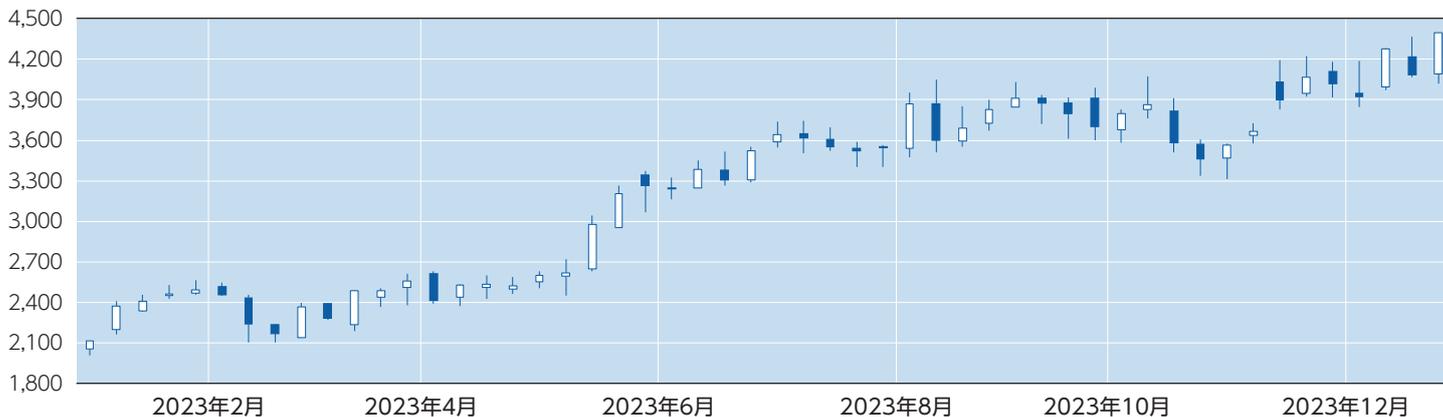
## 研究開発費(百万円)／比率(%)



## 1株当たりの配当金(円)／配当性向(%)







株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当金 受領株主確定日	毎年12月31日
中間配当金 受領株主確定日	毎年6月30日
定時株主総会	毎年3月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株式名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先*	TEL. 0120-782-031 (通話料無料) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
インターネット ホームページURL	www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
証券コード	4971
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL www.mec-co.com/ir/denshi/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主優待情報

保有株式数	優待内容	
1,000株未満	QUOカード 1,000円分	*毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上保有の株主様を対象といたします。
1,000株以上	QUOカード 2,000円分	

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

1. 証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
2. 証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先\*までご連絡ください。

ニュースメール配信サービスのご案内

当社では、ホームページにニュースリリースや新しいコンテンツが掲載された際に、ご登録者の皆様にそのタイトルとURLを電子メールにてお知らせするサービス(ニュースメール配信サービス)を行っています。ご希望の株主様には、こちらのサービスの送信先メールアドレス(携帯電話のメールアドレス不可)を、当社ホームページまたは、RIMSNET (rims.tr.mufg.jp/)から、簡単にご登録いただけます(無料)。

アンケートのお願い

当社では、株主の皆様とのよりよいコミュニケーションを目指し、今後も業績情報の開示の充実に努めていきたいと考えています。つきましては、この株主通信に対するご意見、ご感想をお聞かせいただきたくアンケートにご協力をお願いいたします。  
\*ご提供いただきました情報は、本アンケートの集計の目的以外に使用することはありません。

ホームページのご紹介

www.mec-co.com/

当社のホームページではプレスリリース、株主通信、サステナビリティ報告書、コーポレート・ガバナンス報告書 他各種情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



メック株式会社

本社事務所 / 〒660-0822 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号  
TEL. 06-6401-8160 FAX. 06-6401-8165

URL www.mec-co.com/

